

## CHELIDONIUM MAJUS／ビソウカス

私の経験では、Chel.はその構造的な病像が非常に Lyc.に似ている。特にその人全体を考える場合、この両者を区別することは極めて難しい。

私の見るところ、Chel.は非常に **FORCEFUL**（力のある、力強い）な人である。彼らは人を支配することを必要としているようにみえる。非常に **opinionated**（自説を曲げない、頑固）で、人に自分の意見を押しつけ、そのことに全面的な善意すら持っている。Chel.は自分の専門外の分野についてすら、何が良くて何が間違っているのかというハッキリとした感覚を持っている。彼らは即座にアドバイスをし、そして人がそれに従わないと侮辱されたように感じる。この点で Chel.は **Dulc.**に似ている。

この尊大さは当然 Lyc.を連想させるが、しかし両者には根本的な違いがある。Lyc.は根本的に **coward**（臆病者、卑怯者、腰抜け）であり、その支配は自分がコントロールし従属させることのできる子供などに限られている。Chel.は **coward** ではなく、相手によってその行動を変えることはない。上司に対してもまるで部下に対するように意見を押しつけようとする。Chel.は他のほとんどの肝臓のレメディでみられるような平和主義を示さない。このような人は自分の権利や意見のために闘争することをためらわない。ある意味で Chel.は他人のことを気にかけている。しかしこれは人間らしい思いやりから生じた他人に対する不安感ではない。むしろもっと罪の感覚である。Chel.は誰かのために犠牲になろうとする。しかし、同時にその同じ人がいる場で批判的な発言をすることをためらわない。そしてその人がアドバイスに従わないと、まず侮辱されたと感じ、その人に対する関心をすぐさま失ってしまう。彼らの方向性というのは、人の必要とするものを理解してその役に立つということよりむしろ“**getting the job done**・責務を果たす”ということに向いているのである。Chel.には、その人を援助と支配に向かわせるある種の深い **insecurity**（不安定さ、安全でないこと）があるように思われる。Chel.は強い意志の持ち主であり、その勧告を人に行わせることで **security**・安定と **satisfaction**・満足の感覚を得ようとしているように思える。

特にいえることは、Chel.の人はある特定の人—たとえば夫や妻—に執着を強めていくということである。そうしてその特定の人々の幸福に多大な不安感を持つようになる。Chel.が **Anxiety about others** というルブリクスに加えられているのはこの側面があるためである。たとえば、自分の夫に強い執着を示す女性は躊躇することなく夫を支配する。彼女は非常に強圧的なので、夫はただ黙って彼女の言うとおりにやるだろう。

Chel.はリアリストである。事実が非常に重要で、頭がかたい。明らかに知性的ではない：実際、非知性的ですらある。知的な作業や数学の問題や抽象的な事柄などに対しては、可能ならば常にそれを避けようとする。彼らは、自分の感情を解析したり状況に説明付けをしたり行動を解釈したりといった事で時間を“浪費”したりはしないだろう。Chel.は精神的に怠惰—アパシー的—でだらけている—であると表現することすらできる。

Chel.はたやすく感情に打ち負かされたりはしない。まったくもって感傷的な人ではない。簡単に愛情を表現したりしない。しかし、彼ら自身は他人が自分に愛情と優

しさを示すことを期待している。

感情のレベルで、Chel.は不安感を生じ得る一自分が執着している人に関する不安感と自分自身の健康に関する不安感である。この健康に対する不安感他レメディほどに強いものではないが、ハッキリと存在している。Chel.の場合、これは現実的な不安感である。彼らは能力のある医者チェックを受けようとする。そしてもしなにかちょっとでも問題があると不安になり、すぐに実際的かつ具体的な何かを求める。加えて行われることに対して非常に疑い深い傾向がある。医者が腸炎と診断してもChel.は満足しない。“それは確かですか？肝臓とか脾臓の可能性はないのですか？あらゆる可能性を考えていますか？”と尋ねる。不安感のために、全てのことを網羅しようと駆り立てられてしまう。

Chel.はまた深い鬱状態を味わうことがある。しかしそれは普通ごく短い期間であり、比較的ちょっとした事柄で起こる。Chel.の女性が夫になにかを強く要求していたとして、夫が正確に彼女の望む通りにしなかったとすると、彼女はじっと考え込み深い鬱状態に陥る。しかし、次の日にはそれを乗り越え、次のちょっとした失望を味わう時まで陽気なままである。

もちろんChel.は主要な肝臓のレメディである。ここ最近Chel.の症状で苦しんでいた人は皮膚が汚い黄色や銅色をしていたりする。

他の肝臓のレメディと同様にChel.の症状は朝に悪化する。眠ってもリフレッシュしない。またChel.は朝の特定の時間、午前4時に悪化する。特に神経痛や頭痛に関わることが多い。これはLyc.の午後四時の悪化を考えると興味深いPeculiarityである。Chel.は午後に明確に悪化することはないが、Chel.とLyc.は両者ともevening一午後八時かそこら以降一に調子がよいと感じる。

一般にChel.はcoldなもので悪化する。ただし、頭痛、副鼻腔炎、神経痛は別で、これはcoldで好転する。天候の変化で特徴的に悪化する。寒い天候から暖かい天候になった場合ですらそうである。一般には湿気の多い天候で悪化すると思われるが、これはそれほど強い症候ではないと私は考える：海の近くでほとんど困難無く生活することができているChel.の患者を数人知っている。

Chel.は右側に目立ってみられるレメディである。特に肝炎の痛みの中で、それは右の季肋部から肩甲骨の下角にまで達する特徴的な痛みである。特に急性のケースでは、Chel.を処方するためには実質的に必要不可欠なものである。Chel.は痛む側を下にして横になることでは好転しない。

Chel.は肝臓病の二次的なものとして関節炎の痛みを生じる。特に右肩関節と両膝（幾分右膝が多い）である。膝の痛みは歩くことで著しく悪化する。Chel.は、歩くことで悪化する膝の痛みを考える際のメインレメディである。

私はまだ見たことはないが、Chel.には書物で記されている大きな特徴がある。ミルクとその産物、特にチーズに対する欲求である。チーズを欲しがることさえあれば嫌うこともあるが、好悪がハッキリしないということはめったにない。加えて温かい飲み物や食べ物を欲しがり、それで好転する。

Chel.はその病理がゆっくりと進行し、またレメディを投与された後の反応もゆっくりとしている。投与して一ヶ月後の反応がそれほどハッキリとしなくても（慢性のケースで）、レメディを変えようと急いではない。反応の遅さは別にしても、Chel.の患者は改善の報告をあんまりしてはこないものである。彼らは具体的で客観

的でハッキリと目に見える結果を得るまでは決して満足しない。たとえレメディが奇跡的な変化を生じさせたとしても、こういった患者は回復して一年ぐらい経たないとそれを認めない。“あなたは私が良くなったと言いますが、他の医者は全員まだ私の肝臓は正常化していないと言っています。どうしてあなたが言っているとおりでといえるのです？”と。この人は、肝臓の検査を受けることに固執し、その検査結果のひとつで肝臓がまだ冒されているということをあなたに証明しようとする一苦痛が取り除かれたにもかかわらずである。

あるケースでは、Chel.とLyc.の違いが大きな問題となることがある。一般に。Chel.の方が自分の傲慢な意見を表明する危険性に関して、forcefulでheedless無頓着である。Lyc.はもっとtimid臆病でcowardlyであり、その支配は自分に従属している人に限られる。両者とも健康に対する不安感を持つが、Chel.の方がそれほど強烈でも現実的でも重要な事でもない。両者とも右側のレメディであるが、Chel.の痛みはもっと特徴的に肩甲骨の下角に放散するようなものである。Lyc.は右側を下にして横になる傾向があり、Chel.はその体位では好転せず左側を下にして横になる傾向がある。両者ともbloatedness（膨れる上がること）とdistension（膨張）がみられるが、Chel.はLyc.ほど酷いものではない。Lyc.はChel.よりも甘い物に対する欲求が強い。Lyc.は普通チーズは好きでも嫌いでもないが、Chel.はチーズに対して強い欲求や嫌悪を示す。両者とも温かい飲み物や食べ物を欲し、それで好転する。両者とも歩くことに快適さを感じない。Chel.は午前4時に特徴的に悪化する。Lyc.は午後四時に悪化するが、Chel.にはそれがない。しかし、両者とも夕方に好転する。

Chel.とLyc.の違いというのは、記録されたケースに下地を与えることが必要不可欠であるということの完璧な例である。この両者の違いというのは、白と黒との違いというよりはおよそわずかな陰影の度合いに基づいたものである。書かれたケースでは、患者が述べた症状の色合いを上手く伝えるということが基盤に無ければ、それによって処方を決定することは不可能である。ホメオパシーは、あるレメディから他のレメディを区別するための見事なまでにチューニングされたわずかな違いに基づいた科学なのである。おそらく、Chel.とLyc.の比較対照ほどこの事実がハッキリと表れているものはほかに無いであろう。

以上